

# U.S. Indicators

米国 関税賦課と人手不足による入荷遅延で上振れ(18年6月ISM製造業景気指数)

: 2018年7月3日 (火)

～内外需要の拡大により高水準維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

## I S M製造業景気指数の推移

|       | 総合   | 新規受注 | 生産   | 雇用   | 在庫   | 入荷遅延 | 受注残  | 仕入価格 | 輸出受注 | 輸入   |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 17/06 | 56.7 | 61.3 | 60.9 | 56.3 | 49.0 | 55.7 | 56.5 | 53.0 | 58.2 | 53.5 |
| 17/07 | 56.5 | 61.0 | 60.4 | 55.8 | 49.2 | 56.0 | 54.3 | 61.7 | 57.2 | 56.4 |
| 17/08 | 59.3 | 61.8 | 62.0 | 59.8 | 55.7 | 57.4 | 56.5 | 61.7 | 56.1 | 54.3 |
| 17/09 | 60.2 | 64.4 | 61.9 | 58.7 | 52.6 | 63.4 | 56.9 | 71.5 | 56.2 | 53.8 |
| 17/10 | 58.5 | 63.5 | 61.0 | 59.8 | 48.1 | 60.1 | 53.9 | 68.1 | 55.1 | 54.3 |
| 17/11 | 58.2 | 63.9 | 64.3 | 59.2 | 47.1 | 56.6 | 54.3 | 64.8 | 56.3 | 54.3 |
| 17/12 | 59.3 | 67.4 | 65.2 | 58.1 | 48.5 | 57.2 | 54.9 | 68.3 | 57.6 | 56.5 |
| 18/01 | 59.1 | 65.4 | 64.5 | 54.2 | 52.3 | 59.1 | 56.2 | 72.7 | 59.8 | 58.4 |
| 18/02 | 60.8 | 64.2 | 62.0 | 59.7 | 56.7 | 61.1 | 59.8 | 74.2 | 62.8 | 60.5 |
| 18/03 | 59.3 | 61.9 | 61.0 | 57.3 | 55.5 | 60.6 | 59.8 | 78.1 | 58.7 | 59.7 |
| 18/04 | 57.3 | 61.2 | 57.2 | 54.2 | 52.9 | 61.1 | 62.0 | 79.3 | 57.7 | 57.8 |
| 18/05 | 58.7 | 63.7 | 61.5 | 56.3 | 50.2 | 62.0 | 63.5 | 79.5 | 55.6 | 54.1 |
| 18/06 | 60.2 | 63.5 | 62.3 | 56.0 | 50.8 | 68.2 | 60.1 | 76.8 | 56.3 | 59.0 |

(出所) I S M : the Institute for Supply Management

### 製造業景気指数は 60.2 と前月比 1.5%ポイント 上昇し高水準を維持

18年6月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、60.2と市場予想の58.5(筆者予想57.3)への低下に反して前月比1.5%ポイント上昇した。関税賦課など米政権の通商政策の不透明感や人手不足を背景に入荷遅延が大幅に上昇し、総合指数は1.24%p押し上げられ予想を上振れた。もっとも、この要因を除いても総合指数は高い水準を維持しており、製造業部門の好調持続を示している。米国の鉄鋼・アルミニウムへの関税賦課、貿易戦争への懸念の高まり、人手不足などの悪影響を受けながらも、国内需要の堅調さ、世界需要の拡大等を背景に、米国製造業部門の活動は活発化している。

総合指数を構成する項目では、雇用、新規受注が低下した一方、入荷遅延、生産、在庫が上昇した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、雇用(前月比▲0.06%p)、新規受注(前月比▲0.04%p)が押し下げ寄与となった一方、入荷遅延(前月比+1.24%p)、生産(前月比+0.16%p)、在庫(前月比+0.12%p)が押し上げ寄与となった。人手不足等で入荷遅延が強まっているものの、重要項目である新規受注や生産が内外需の堅調さを映じて高い水準で推移していることから、製造業部門は当面良好な状態を維持すると判断される。

一方、インフレ面では、新規受注や生産の高い水準での拡大傾向、入荷遅延や輸入制限導入などを受けた商品価格の上昇によって仕入価格が高い水準にとどまっており、川上でのインフレ圧力は強いままである。

### 全18業種中17業種が 拡大した

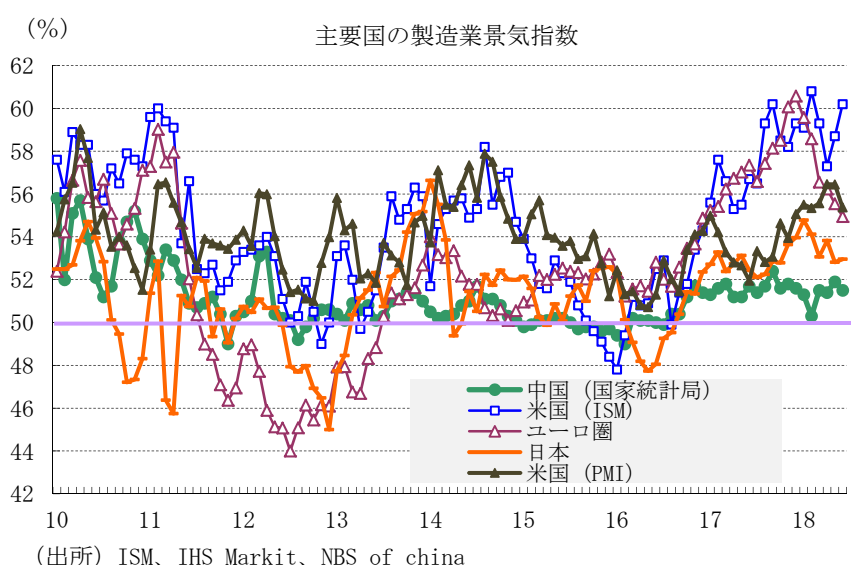
総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、繊維、木材製品、非鉄、印刷・関連サポート活動、電気設備・部品、加工金属、コンピューター・電子機器、食品・飲料・タバコ、紙製品、輸送機器、家具・同関連、二

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

般機械、一次金属、その他製造業、化学製品、石油・石炭、プラスチック・ゴムの17業種（前月17業種）と、多くの業種で拡大しており、製造業は広がりを持った拡大を続けている。縮小した業種数はゼロ（前月ゼロ業種）だった。なお、アパレルは前月と変わらずとなった。

### 製造業景気指数は当面 高水準を維持する公算

今後、貿易戦争の本格化、人手不足の強まり、中国経済の構造変化に伴う中期的な成長鈍化など需要の伸びを抑制する要因が残存すると予想される。このようなもとの、雇用・所得の増加や保有資産残高の増加等による個人消費の拡大や、IT、効率化、米国での生産能力拡大などに伴う設備投資の増加を背景に、米景気は堅調さを維持するとみられる。また、海外需要は拡大モメンタムのピークアウトも緩和的な金融環境や改善の続く内需に支えられ堅調さを維持する公算が大きい。以上より、ISM製造業景気指数は、当面高い水準で推移すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。